

2018

JAN. 1 vol.43

東京成徳広報



関東予選を通過し全国大会に出場した深谷高校ダンス部



学校法人 東京成徳学園

C O N T E N T S

P 3	巻頭言「グローバル社会と学び」 東京成徳学園 学園長 木内 秀俊
P 4	中期事業計画
P 6	大学改革 キャンパス整備（新校舎紹介 図書館改修） 高大連携推進（背景 学園の取組）
P 8	ひと『活躍する卒業生』 市川市立 塩浜学園 瀧澤 良輝さん
P 9	進路状況
P 10	TOPICS 大学院 応用心理学部（臨床心理学科）
P 11	応用心理学部（福祉心理学科 健康・スポーツ心理学科）
P 12	子ども学部 経営学部
P 13	人文学部（日本伝統文化学科 国際言語文化学科）
P 14	短期大学 高等部
P 15	中高一貫部 深谷高校
P 16	深谷中学高校一貫コース 幼稚園
P 17	秋を彩る各校のイベント 子ども学部「手づくり絵本コンクール」 大学（東京 千葉）
P 18	中高一貫部 高等部 深谷高校 深谷中学 幼稚園
P 19	クラブ活動
P 20	入試予定・お問い合わせ先



TOKYO SEITOKU

学園シンボルマーク
イエローは「活力」と「勇気」を表し、
三本の柱は学生・生徒・園児、教職員、
同窓生を象徴しています。
ブルーは「理想」と「若さ」を表し、五
本の柱は五つの教育目標を象徴していま
す。
そして、八本の柱が一体となり、東京成
徳学園とその学園に集う人々のヒューマ
ニティを作り上げる姿を表現しています。

表紙 活躍する深谷高校ダンス部

ダンスドリル（ダンドリ）とは、アメリカ発祥のダンスで、繰り返し練習し統率されたダンスの総称です。その中にジャズ、チアなど十数種類のダンスが含まれます。現在アメリカの高校では正規の授業として認められています。人気のアメリカンフットボールのハーフタイムに華やかに会場を盛り上げているのをご覧になった方も多いと思います。



「グローバル社会と学び」

東京成徳学園 学園長 木内 秀俊

グローバル社会の到来

現代はグローバル社会であるという。グローバル社会では国家・地域などの境界を越えて人・物・情報が活発に交流することにより、経済的社会的な結び付きが強まって様々な変化が起きていく。自由で活発な競争環境と異なる価値観の出会いによる切磋琢磨は、研究・技術や文化・芸術などの分野では多くの進歩・成果が期待される。しかし経済分野では資本主義に伴う弱肉強食と集中化の様相が見られ、地球規模の巨大企業を始めとする大規模企業と個人企業・中小企業などとの二極分化や格差拡大傾向も見られる。

一方グローバル社会は様々な変化を伴いつつ生活面での均質化・融合化が進む社会と言える。都市が発達し都市生活が多くの人々の生活環境になつていく。日常生活では世界各地の多くの食料品や製品が流通する社会になつていく。

ICT技術の進歩と社会の変化

グローバル社会は同時にICT（情報通信技術）の急速に進歩している時代と重なっている。インターネットによる情報の広く早く安価な流通が可能になり、IoT（モノのインターネット）では家電を始め様々なモノがインターネットで結びついている。またAI（人工知能）の進歩はICTが単なるインターネットによる情報の獲得だけでなく、一定の分野の頭脳労働をこなす段階にまでなっている。例えばチェス将棋、囲碁などのゲームの世界ではコンピュータの優位性がますます高まっている。さらに省力化に対応するロボットの発達もあり、ICTの進歩と相まって益々人間の労働が機械に置き換わっていくことが増えていくと考えられる。この変化の大きさは産業革命時に生じた労働の変化と同じような大きな変化と思われる。

また自動車や飛行機の発達が「より早く安く・より遠くへ・より安全な」移動手段を個人に提供したのと同様に、ICTの発達は個人に情報通信

分野での利用可能性を広く提供することとなった。従来の紙ベースの情報メディア（例えば新聞）が最近不振傾向にあるのもインターネットで個人が情報に「早く・安く」アクセス出来るようになったことも大きな要因と言えるだろう。この情報アクセス面での変化は、

宗教改革の際に聖書の母国語訳が作られ印刷術も発達した状況に似ている。従来聖書は古典ギリシャ語などで書かれ神父（知識人）のみが読めたが、母国語訳により一般の人々も直接聖書を読むことが可能になった。同様にインターネットによって一般の人々が情報に接する手段が広がったが、他方提供される情報は真偽・精粗入り混じっており、個人にも情報の取捨選択能力や真偽の判定能力が必要とされている。

分断され混迷する社会

グローバル社会においても政治や社会面では国民国家・民族集団としての制約が厳然としてあり、分離独立（クルド民族やカタルニアなど）の自由は強く制限されている。また世界には独裁国家・統制国家も多く、その世界への影響力も小さいとは言えない。日常生活でも監視カメラが多数設置される社会であり、スマートフォンの写真機能の発達により何処でも誰でも撮影者となり被写体となり得る

社会となっており、いわば相互監視状況にあるとも言える。また社会的な面でも国民・民族によって意識の濃淡がある。特に宗教・イデオロギーや経済問題（格差など）が絡んで先鋭化すると、他者との差異に敏感となり紛争・衝突になることも多い。イギリス・アメリカなどで見られる二極分化現象もこうした側面によるものと考えられ、移民・難民問題は受け入れ国の経済的な負担とともに、宗教的・文化的な違いによる摩擦の面も大きいと思う。

グローバル社会の学びのために

このような競争が激しくまた混迷するグローバル社会を生き抜いていくためには、①タフな精神と柔軟な心 ②スピーディーな実行力 ③他者に共感できる感性 ④自己肯定力 が必要とされよう。また具体的な能力として ①幅広く豊かなコミュニケーション能力 ②ICTを活用するための知識やセンス が必要となろう。そして何よりも健康がこれらの活動を裏打ちするものとなる。

最後にグローバル社会にあっても、四季と多様な生物に恵まれた日本列島の環境への愛情とそこに住む同胞への共感維持すべき大事な魂の源である。

中期事業計画の策定にあたって

このたび、本学園では、東京成徳ビジョン100第1期中期事業計画（平成29～31年度）を策定いたしました。この中期事業計画は、平成27年に創立90周年記念事業の一環としてまとめられた、学園創立100年に向けた将来構想「東京成徳ビジョン100」を、確実に実現するために立案されたものです。

経済社会のグローバル化や情報化の急速な進展及び少子化など社会構造の大きな変化の中で、本学園もこれに対応して変革を推進していかなければなりません。

そこで、東京成徳ビジョン100を実現するための中期事業計画について、第1期平成29～31年度、第2期平成32～34年度、第3期平成35～37年度の3期に分けて計画し、不断の見直し・改善を行いながら目標達成を図っていくこととしました。学園は、このビジョン及び中期事業計画の実現を目指し、教職員全員が一丸となって全力で取り組んで参ります。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

概要は次のとおりです。

東京成徳ビジョン100の将来像

「成徳」の精神を持つグローバル人材の育成

東京成徳ビジョン100の重点目標・戦略及び第1期中期事業計画の概要

1. 教育体制

東京成徳ビジョン 100		第1期中期事業計画（平成29～31年度）	
部門	重点目標	主要戦略	
大学	社会ニーズに対応した学部・学科編成	<ul style="list-style-type: none"> ○現在の3学問分野（①人文学・心理学 ②経済学・経営学 ③教育学・育児学）を維持し、学生数2,600人超の規模を目標 	<ul style="list-style-type: none"> ・人文学部のキャンパス移転と改組転換 ・応用心理学部の学科再編 ・学部・学科の移転に伴う教育体制の見直し整備
	教育の質向上 就業力や社会人基礎力育成での社会的評価の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ○教育改善の持続とその成果の社会への訴求 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職・進学と特色を勘案したカリキュラム改善 ・本学のアクティブ・ラーニングの開発・拡大 ・キャリア教育の見直し・充実
	大学の発展につながるグローバル化	<ul style="list-style-type: none"> ○学生のグローバル環境への理解・体験の深化 	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際化センター（仮称）」等新組織の設置 ・海外提携大学の開拓・海外留学支援体制の整備 ・外国人学生の受入れ態勢整備
短期大学	社会ニーズに対応した学科編成	<ul style="list-style-type: none"> ○社会のニーズに応えた学科内容構築の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な本学独自のカリキュラムの検討・改善 ・幼稚園教職課程の変更に沿った見直し
	教育の質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○時代のニーズに合う充実した教育を学園内連携により提供、専門的知識・実践的能力を身につけた人材の養成 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の公表奨励、研修や授業公開の実施 ・附属幼稚園との現実感ある教育の推進
	就業力や社会人基礎力の育成での社会的評価の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション能力の養成など基礎的教養の指導徹底 ○卒業後のサポート体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えや学びを伝える能力の養成強化 ・ホームカミング企画や保育研修会の継続 ・幼稚園教諭1種免許乗り換えプログラム等の検討
	短期大学の発展につながるグローバル化	<ul style="list-style-type: none"> ○国際的理解教育と外国教育機関との国際交流の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修旅行の継続等による国際的理解教育・国際交流の充実、異文化体験の一般化 ・「保育英語検定」の取得など保育英語の取得可能な体制の整備
高等学校・中学校	創造性とチャレンジ精神の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ○建学の精神「成徳」を有し、主体的に学び、考え、行動する人材の育成 ○連携して目標や課題にチャレンジして達成する意欲の向上推進 ○教育方法の質的転換を図り、理数教育を改善強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神に基づく「自分を深める学習」の深化、学校行事の主体的運営の実現等による生徒の豊かな発想の促進 ・芸術分野の鑑賞・行事を通じて生徒の創造的能力のアップ
	グローバル人材の育成での社会的評価の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲と行動力に富む人材の育成 ○グローバル人材育成の強化、異文化理解とコミュニケーション能力の向上、海外教育協力校との連携交流 ○ICTの活用と情報リテラシー教育推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境の整備 ・CTP、アクティブラーニングなど、教育方法の質的転換推進及び職員の研修体制の強化 ・英語四技能を強化し、毎日学習時間を設定 ・中学のイングリッシュキャンプ・全員の3ヶ月海外留学の実施
	大学入試の変化等ともなう教育内容の変化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○教科としての取組みとともに、個々の教員の指導力向上 ○進路指導の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトを立ち上げて対応検討 ・年度毎に進学目標を設定し、実現に向けた取組強化

中期事業計画

東京成徳ビジョン 100		第1期中期事業計画（平成29～31年度）	
部門	重点目標	主要戦略	主要施策
深谷高等学校・中学校	創造性とチャレンジ精神の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の能力や学習意欲を引き出す授業や特別活動の展開 ○机上の学習を実体験として生かす機会の設定 	<ul style="list-style-type: none"> • 教員の授業力アップ、アクティブラーニング型授業実践、授業の量的・質的確保策の実施 • 学校行事の生徒主役運営へのPDCA • 外国人教員を活用したクリル（CLIL）（教科学修と語学学習の統合）の試行
	グローバル人材の育成での社会的評価の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語（英語）教育の充実 ○コミュニケーション能力の向上 ○外国文化・日本文化の理解、海外姉妹校締結 ○学校関係者評価や第三者評価の活用 	<ul style="list-style-type: none"> • 放課後における英語検定対策講座・個人指導の充実、検定試験の種類の見直しと対策の検討 • インターネット活用の個別学習指導の導入 • 外国人教員の増員、留学生の受入れ・交流 • 評価の着実な実施と活用
	大学入試の変化等にもともなう教育内容の変化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○入試形態の現状把握、入試問題の分析と教育内容への反映 ○同窓会との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> • 新入試と新学習指導要領の研修と対応策の検討、組織的な入試問題分析・模試分析の継続 • 特待生制度の見直し • 受験指導で「東京成徳サポーター制度」導入
附属幼稚園	幼児教育環境の変化に対応する幼児教育のプログラムの再構築	<ul style="list-style-type: none"> ○「こども園」を検証し、園の方向性決定 ○カリキュラムを中心とする教育内容の改善継続 ○グローバル対応プログラムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> • 幼稚園の運営形態と園舎建て替え計画の検討 • 教育内容の質を高め保育園や他園との差別化 • 楽しみながら体験するコミュニケーション英語の実施、異文化に触れるイベント実施
	大学、短期大学等との連携の深化	<ul style="list-style-type: none"> ○大学・短期大学からの指導援助を受けながら改善に努める一方、実習園としての機能維持 	<ul style="list-style-type: none"> • 実習内容などの検討、学生の幼稚園行事への参加機会増等検討

2. 経営基盤

東京成徳ビジョン 100		第1期中期事業計画（平成29～31年度）
重点目標	主要戦略	主要施策
大学の段階的な規模拡大による学園規模の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○大学の段階的な規模拡大により、学生数2,600名を超える規模への段階的拡大 ○短期大学及び中等教育部門の建学の精神を活かした教育による現状規模維持 ○幼児教育部門の総合学園としての特長を生かした現状規模の維持 	<ul style="list-style-type: none"> • 高等教育は、人文学部の東京キャンパス（十条）移転と学部改組、応用心理学部の再編、ニーズに合ったカリキュラム見直し、ホームページや大学案内の改善、高校訪問強化等による全学科の入学定員確保 • 中等教育は、教育実践などを広くアピール・ホームページや学校案内の見直し・改善による募集強化 • 幼児教育は、総合学園の特長である各部門との多様な連携を広くアピール、ホームページ見直し・改善
社会的ニーズに対応した戦略的な施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○学園の中長期展望を踏まえたうえで、資産効率が高められ、かつ安全性と快適性が増すよう、分散した施設の集約推進、施設設備の建替えやリニューアル・セキュリティ対策推進 	<ul style="list-style-type: none"> • 東京キャンパス（十条）に6号館を新築、大学院・臨床心理学科・人文学部の移転や臨床心理学科の定員増に加え、グローバル教育など新たな教育への取組みに対応 • 分散施設の集約、活用不十分な資産売却推進 • 貸借中の中学・高等学校施設の買収と幼稚園の移転を含む活用計画の策定
安定的な財務	<ul style="list-style-type: none"> ○各部門の定員確保や多様な補助金・寄付金の獲得による収入増とメリハリのある支出の抑制 	<ul style="list-style-type: none"> • 収入について、全部門での定員確保による学納金増加、補助金と寄付金の増加に注力 • 支出について、部門移転・統合に伴う業務の見直し・合理化による人件費削減及び諸経費見直し等による経費削減の推進
活力を生む人事制度	<ul style="list-style-type: none"> ○教員について、人員の適正配置・多様な人材の活用を進め、切磋琢磨の風土醸成 ○職員について、人員の適正配置、多様な人材の受入れ推進 	<ul style="list-style-type: none"> • 教員採用に当り、公募制・任期制・模擬授業などによる厳正な採用、学生等による授業評価・FDや互見授業による教育スキルの向上 • 職員研修・SD活動の充実 • 職務分析及び人事評価制度の検討

3. ネットワーク

東京成徳ビジョン 100		第1期中期事業計画（平成29～31年度）
重点目標	主要戦略	主要施策
創立100周年に向けて、学園の教育及び経営基盤を支えてきた、「オール東京成徳」のネットワーク強化、地域社会との連携取組の積極化	<ul style="list-style-type: none"> ○創立100周年を記念する各種イベントを実施し、学園のプレゼンスを高めるとともに、地域社会との連携推進 ○地域社会に向けたイベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> • 創立100周年イベントに向けた情報の収集 • 各種会議等を通じ部門間の共通認識を高め、連携強化 • 部門ごとと同窓会活動の活性化 • 自治体との連携プロジェクトや委員派遣等の推進

大学改革（高大連携推進）

企画・IR室長 長谷部孝司

高大連携・接続の進展

グローバル化や技術革新の進展など、社会情勢の急激な変化を背景に、高等教育のあり方がさまざまに問い直されています。これを受け、昨今「高大連携」「高大接続」の重要性に多くの注目が集まり、さまざまな改革が進んでいます。

まず、高大連携は、平成11年に中央教育審議会が出した答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」を機に、具体的な動きが進み始めました。その結果、現在多くの大学や高等学校で、大学教員が高校に向いて講義を行う「出前授業」や、大学による高校生向けの特別講座の開催、さらには、高校生が大学で受けた授業を高校の単位として認める、などの動きが見られるようになってきました。

次に、高大接続は、平成26年の中央教育審議会の答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」を受け、平成27年に「高大接続システ

ム改革会議」が発足したことで具体化し、平成28年3月には同会議の議論が「最終報告」として取りまとめられました。

ここでは、グローバル化や技術革新の進展、生産年齢人口の急減など、予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要とされ、そのためには、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を通じて学力の三要素①基礎的な知識・技能、②思考力、判断力、表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を確実に育成・評価するための一体的な改革が重要とされました。

その結果、高等学校の教育成果を総合的、多面的に評価し大学教育に反映させるための大学入試改革の導入が、重要な施策として示されました。

高大連携・接続の背景

このような動きが進んだ背景には、以下の事情があります。

第一に、社会情勢の変化としては、産業構造のソフト化・サービス化が進み、産業の競争力の決め手が、機

械設備の大規模化などから技術やアイデアなど新しい情報や知識の創造力に移ったことで、教育には問題発見と解決能力の育成がますます求められるようになったこと。

第二に、そのような状況にもかかわらず、高等教育の現状は、18歳人口の急激な減少により入試のハードルが低下したことで、中高生の勉強離れ、学力低下が否めない状況となっていること。

そこで、生徒・学生が学力的にも気質的にも多様化する現状の中で、高等教育の質を高めていくためには、高校・大学という高等教育全体を通じた一体改革が必要となり、高大連携・接続の動きが広がることになりました。

本学園の取組

このような動きを受け、本学園でも平成28年2月から、「東京成徳大学・東京成徳短期大学と高等学校との連絡協議会」を発足させました。

同連絡協議会は、東京成徳大学・東京成徳短期大学と併設二高校との間で以下を共有することをねらいとしています。

- ① 大学・短期大学への進学をめぐる状況についての情報共有
- ② 大学側からの出前授業

- ③ 高校側からの情報提供
- ④ そのほか、双方にとって必要な案件

現在、同連絡協議会は以下の内容で四回目を数えました。

第一回「東京成徳大学・東京成徳短期大学と併設高校との連携をめぐってのフリートークキング」

第二回「最近の子ども（高校生、大学生）とその保護者像」

第三回「データで見る東京成徳の生徒、学生」

第四回「新学習指導要領及び新テストについて」

四回の会議を通じて、本学園の大学と高等学校の教育の現状について情報共有が進みつつありますが、同時に、高大連携・接続を具体的に進める上での難しさも明らかになってきました。

高大連携・接続は、巷間では大学入試センター試験に代わる「大学入試共通テスト」のあり方に注目が集まっています。しかし、その本来のねらいは、上記のように、高等教育全体を通じた学力の三要素の育成などにあります。この課題に十分に応えるためには、さらに多くの議論が必要です。本学園の「連絡協議会」では、これにこたえるべく、今後も活発な議論を進めていく予定です。

ひと

『活躍する卒業生』

人文学部日本伝統文化学科

(平成20年3月卒業)

義務教育学校 市川市立塩浜学園

進路指導主事 教諭 瀧澤 良輝さん

Q・本学を志望された動機、在学中特に印象に残っていることは

私は中学校1年の時はいわゆる悪ガキで、先生から褒められることはあまりありませんでした。2年生になり担任の先生から「給食の配膳台がちよつと壊れているので直してくれないか」と頼まれ、私は物を作り修理するのが好きなので、「そんなの簡単だよ」と得意になって直しました。翌朝クラスの友人たちが配膳台が直っていると話題にしていたら、先生が「それは瀧澤君が放課後残って直してくれたんだよ」と褒めてくれ



ました。皆の前で「褒められる」という体験をして、「褒められる、人に認めてもらえる、友達から尊敬される」ことがこんなに嬉しいことだとは思いませんでした。この体験を通して自分も先生のようになって人を育てたいと考え、担任が国語の先生だったこともあり国語教師を目指しました。千葉県立実籾高校で学んでいる時も理数系より文科系の方が自分に向いていると感じて「国語教師」への夢はますます強くなりました。

国語の教員免許が取得でき、かつ、通学に時間がかからない近い大学がよいと思えました。大学が近ければ勉強やサークルなどの課外活動に力を入れられると考えたからです。東京成徳のオーブンキャンパスでは、広大な敷地で、少人数教育が行われており、この大学ならのびのびと学生生活が送れると思志願しました。

大学入学直後のオリエンテーションで、先生から「写真を撮ることが好きならば房総プロジェクトに入っただけ、早速参加させていただくことになりました。そこから私の大学生活は大きく変わりました。秋の大学祭に向けての研究や発表・展示をするための準備を夏休みから始め、

休み中に県内各所の史跡・名所などを撮影しました。早出での準備や先生方の研究室で夜遅くまで勉強会などをしました。

この学科は人情味あふれる先生方が沢山いらつしゃって、先生との距離も近く、また、先輩・後輩の隔てなく研究ができたので、自分の授業のあるなしにかかわらず大学へ行くようになり、学生生活を謳歌できました。房総プロジェクトの活動は、後の私の教員人生に大きな影響を与えたものでした。

Q・現在のお仕事、将来の希望は

大学卒業後、県立千葉大宮高等学校に非常勤講師として勤務することができ、学校で働くことの基礎や授業の手法を学びました。次に拓殖大学紅陵高等学校に勤務し、校務分掌や部活動顧問も体験し、専任教員として働くことの大変さも学びました。教員3年目に公立の採用試験に合格し市川市立第二中学校へ赴任しました。2年目からは担任も務め、5年目には進路指導主事と市川市公立中学校進学協議会の事務局長を務めました。翌年度、市川市立塩浜中学校へ転勤しここでも進路指導主事を拝命、転勤2年目に小中一貫の義務教

育学校、市川市立塩浜学園に校種が変わってからは、中学生(後期課程)だけではなく小学生(前期課程)の教育にも携わるようになりました。

進路指導主事のかたわら9年生の副担任をしています。昼食は生徒といっしょにとり、生徒たちがネットで使う絵文字や顔文字の記号なども理解できるようにコミュニケーションの円滑化に努めています。忙中の閑にはモータースポーツやアマチュア無線を楽しんでいます。将来は大学院への長期研修に参加し、教科やキャリア教育のさらなる研鑽に努めていきたいと考えていますが、何分多忙のため勉強会などに出席できないのが残念です。

Q・先輩へのひと言

卒業間近かに非常勤講師の口があり、コマ数も少なく条件は厳しかったのですが、武者修行で「学校で働ける！」ことが大切だと思喜んできました。そこで沢山の先生方(同僚や上司)と出会い教えていただくことが多くあり、現在でもその関係は続いています。目先の利害関係ではなく、人との関わりやご縁と言ったものが自分の財産になっています。先輩の皆さんも、人との関わりを大切にされたらよいと思います。

進路状況

大学・短期大学

学生の職業キャリアを育成するために何をなすべきか

大学・短期大学学生支援課

今後の環境予測と必要な事

今後、10年〜20年の間に日本の労働人口の約49%が人工知能やロボット等で代替可能と言われる時代に、学生のキャリア意識を高めるために何をしなければいけないか。

これまで学生の就職支援をしながら学生の状況を把握し、又就職支援会社のデータや他校との情報交換によって今の学生の現状を分析、2000社以上の企業に訪問し企業の採用担当者と求める人材や入社後に活躍する人材を話しあう中で、考えていることです。

「社会に出て自分の未来を切り拓いていける人材」は、社会を知り、自分の興味関心や強みを見つけ、それを磨き、社会の求めるものに編集している。

そのようになるために、大学の就職支援担当として出来ることは、学

生との接点において、①良質な経験を積むよう気付きを与えること、②その経験を内省化させること、③それと同時に、自分の将来をイメージし、そこから現状がどのように位置付けられるかを測定させること、④そして、そのギャップを埋めるために目標・計画を立て、実行させることです。この一連のサイクルが重要であり、これをいかに促すが必要となります。

本学の学生の現状

本学の学生をひと言でいうと「多様性」です。職業観を持つている学生もいれば、今のこの時のことしか考えない学生もいます。表面には表れない学生の持つ考え方や思いを把握しながら、個々の学生をより深く理解しながら支援していく必要性を感じます。

又、大学生全般に言えることです。世界が狭い(大学とアルバイトでの交友関係しかない。話さない。当然視野が狭くなり、物事を発想するうえで、論理的・創造的なものができてこなくなりがちに)。企業が新卒採用選考時に重視する要素は、経団連の企業調査によると「コミュニ

ケーション能力」が13年連続で首位。このコミュニケーション能力は、限られた狭い世界の中にある(HAIコンテクスト文化。コンテクストとは、文脈・背景の意味。HAIコンテクスト文化とはコンテクストの共有性が高い文化のこと。伝える努力やスキルがなくても、お互いに相手の意図を察しあい通じあえてしまう。限定的な世界にいると、ツーカーで気持ちが通じ合うことに)。HAIコンテクスト社会だけのコミュニケーションでは、社会に出るとコミュニケーションが滞ってしまう。前提や背景が異なるからです。

コミュニケーション力を高めるために、他流試合(他大学の学生と交流する。異なる年代の人と話す世界に飛び込む)の機会を自ら創ってもらいたいと思います。

4年生の進路状況

さて、ここまで今後のあるべきキャリア支援的なことを書かせて頂きました。次は、今年度4年生の現時点での進路状況をご報告したいと思います。

今の就職環境は、好景気を反映

し、学生優位の売り手市場が続いているため、昨年と比較しても現時点での進路決定率は昨年より数ポイント高まっています。乱暴な言い方かもしれませんが、就職活動を行いさえすれば就職は決まる状況にあると言えるでしょう。いうまでもありませんが、未内定の学生については、引き続き本学の就職支援体制の特徴でもある教職協働にて、学生が納得する就職が出来るよう支援をしていきます。

平成29年12月25日現在の進路決定状況は、次のとおりです。

大学

子ども学部(子ども学科)	77.1%
経営学部(経営学科)	85.7%
人文学部	57.6%
(日本伝統文化学科)	55.0%
(国際言語文化学科)	61.5%
応用心理学部	77.2%
(福祉心理学科)	60.0%
(臨床心理学科)	73.1%
(健康・スポーツ心理学科)	89.1%
短期大学	
幼児教育科	87.2%

大学院・応用心理学部

国家資格「公認心理師」への対応

大学院心理学研究科・応用心理学部臨床心理学科

教授 田村 節子

国家資格の公認心理師とは？

みなさんは、わが国ではじめて心理職の国家資格ができたことをご存知でしょうか。名称は「公認心理師」。これから耳にする機会が多くなると思います。公認心理師の第1号は平成30年度に誕生します。公認心理師の具体的な業務は公認心理師法により次の4つ定められており、心に関する見立てや相談・予防活動等を行います。

- (1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- (2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

公認心理師を目指すには？

本学でも公認心理師を目指す学

生のために受験資格が得られるようカリキュラムを整えています。カリキュラムの到達目標は「高度専門職業人として公認心理師の責務を果たすために、心理実践に必要な臨床心理学の応用・実践的な理論及び技能を修得している」です。学部では「臨床心理学概論」「心理検査実習」「心理面接実習」をはじめ23科目と、医療・保健、福祉、教育、産業、司法・矯正等の各機関の見学・体験実習60時間以上の履修が公認心理師法により定められています。

公認心理師の受験資格を得るには、次の2つの選択枝があります。
① 学部で指定科目を履修して卒業後実習プログラムが整っている機関で3年間程度働く、② 大学院に進学し指定科目を履修する。
学部卒業と同時に受験資格を得ることはできませんが、公認心理師はそれだけ高度な専門性を必要とする資格となっています。

大学院の公認心理師対応とは？

本学の大学院には、修士課程1年20名、2年20名、博士課程5名が在籍しており、心理学研究科としては規模の大きな大学院となっております。現在は、臨床心理士と学校心

理士の養成を行っていますが、来年度からは加えて公認心理師の養成にも力を注ぎます。カリキュラムの到達目標は、学部と同様「高度専門職業人として公認心理師の責務を果たすために、心理実践に必要な臨床心理学の応用・実践的な理論及び技能を修得している」です。そのため本大学院心理・教育相談センターでケース担当やカンファレンス等を180時間以上、学外の施設実習（医療・保健は必修、福祉、教育、産業、司法・矯正領域から2領域を選択必修）にて270時間以上実習します。各領域実習ごとに事前指導、中間指導、事後指導を実施します。その他に臨床心理援助技法科目等で90時間以上、計450時間以上実習することが課せられています。

北区包括協定と公認心理師実習

本学は平成27年3月30日に「東京都北区と学校法人東京成徳学園との連携協力に関する包括協定」を結びました。北区と大学が連携・協働に関する基本的な協定を締結することで様々な地域課題の解決を行い豊かな地域社会の創造を目指します。

この度公認心理師に関する実習について北区教育委員会のご尽力

により学部、大学院ともに北区の教育機関に快く受け入れていただけることになりました。北区の教育に資するよう臨床心理学科、心理学研究科教員一同で学生の事前指導をしっかりと行い北区の教育機関へ送り出します。また、現在学部生数名が北区小学校へボランティアとして受け入れていただいております、子ども達に直接関わられる貴重な機会となっております。また、北区小・中学各2校においてスクールカウンセラーを目指す大学院生の実習も受け入れていただいております。院修後、北区スクールカウンセラーとして活躍している者もいます。

公認心理師を目指すしない学部生でも授業は受けられる？

公認心理師を目指すしない学部生でも公認心理師科目の授業を受けることができます。一步社会に出れば、本学の理念でもある「共生とコミュニケーション」は必須です。公認心理師のためのカリキュラムは人の心の基本的な仕組みや働きを学ぶため、社会人にとっても重要な内容となっております。関心のある科目があったら、ぜひ、受講してほしいと願っています。

【福祉心理学科】
共生社会と福祉心理学科の学び

学科長 中山 哲志

本学科生たちは、福祉、医療、教育の現場で求められる専門性の取得に熱心に取り組み、「対象者のところに寄り添い、支援できる人材となる」ための学修に励んでいます。実学的な学修も多く、一年生は八千代市で開催された車いすサッカー大会運営を支え、二年生は千葉県主催の知的障害者スポーツ大会の手伝いをしました。三、四年生は資格取得（社会福祉士、精神保健福祉士、高等学校教員免許福祉、特別支援学校教員免許）に関係して約一ヵ月あまり現場実習に臨みました。実習後、どの学生も素晴らしい成長ぶりを見せてくれます。

新年を迎え、三月には四年生が卒業していきます。本学科教員が誇りに思うのは、卒業生の多くが厳しい労働環境にあると指摘される福祉現場に入り働き続けていることです。人と人が支え合うことができます。必要となる共生社会にあつて、対象者の立場や心に寄り添った支援を目指し活躍する姿は本学科関係者にとって誇りです。

すでに千三百人以上の卒業生が

本学科から輩出し、全国各地の福祉、医療、教育現場で活躍しています。在學生は卒業生の活躍を誇りに

思い、ロールモデルとして目標にしています。今年度の翠樟祭は大雨にもかかわらず、遠方から卒業生が訪ねてくれました。卒業生と話しているのはインクルーシブな社会であり、だれをも排除しない共生社会の実現であることを確かめることができました。

会話のなか、心配顔で聞かれた「先生、福祉心理学科の学生募集が停止されるって、ほんとうですか」の質問はきついものでした。「残念だがそうだ。でも、公認心理師のカリキュラムのなかに『福祉心理学』の学びも入ったし、君たちが学科で学んだことを誇りに思っただけでも活躍して欲しい。福祉心理学の学修はこれからの共生社会の実現に必要な価値ある学びで、在學生もその想いを胸に頑張っているよ」と応えました。

やりとりした会話での声忘れられません。福祉心理学の学びを在學生、卒業生とともにますます充実させていきたい、と心から思います。

【健康・スポーツ心理学科】
男子サッカー部2部リーグ初優勝！

学科長 木幡 日出男

東京成徳大学男子サッカー部は、平成29年度千葉県大学サッカー連盟2部リーグにおいて創部史上初となる優勝をいたしました。1部の3大学Bチームも加入した13チームで争われたリーグ戦での成績は、10勝1分1敗。勝点31、得点53、失点6、得失点差47。2位チームとは勝敗、勝点とも同数でしたが、得失点差で大きく上回った結果でした。木内理事長はじめ新井学長、関係する皆さまのご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

サッカーというスポーツは、足のプレーが多いことから「ミス（多い）スポーツ」とも言われています。



だからこそ普段の練習では、一つのプレーの基本に拘ること（止める・蹴る・運ぶ）や「判断」「プレー」「走る」それぞれの速さを重視し、それを学生に求めています。大量得点とともに1試合平均0.5点という失点は、選択肢の多い攻撃と簡単に崩れない守備を貫くことができた結果といえるでしょう。しかし、攻守両面において、どのように戦うのかをチームメイト同士で試合や練習時にコミュニケーションを積極的に取りながら共通理解を図ることがまだまだ不足していました。

練習以外の日常生活においては、本分である授業の遅刻や欠席、居眠り、私語などをしないで意欲的に学ぶこと、学生生活の基盤となる毎日の生活のリズムを崩さないことなどを理解、実行しています。また、部の運営を学生主体で行っている関係で、部内での自分の役割をしっかりと実行できるように努めています。

来シーズンは、競技レベルの高い1部リーグでの活動になります。新たなステージで自分たちのスキルのみならず一つのことに向き合う姿勢と実践を追究しチャレンジしたいと思います。今年度同様、より一層のご指導のほどお願い申し上げます。

子ども学部

子ども学とは（リレー掲載②）
子どもの育ちを支える多領域からのアプローチ

准教授 坪井 瞳

平成30年4月より施行される新・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、幼児期の教育とは、幼児期に必要な資質・能力を伸ばすことによつて、人生全体の土台、同時に小学校以降の教育の基盤を培うものであることを明確に示している。そして、（改訂以前からもそれらの中では「心情・意欲・態度」として、感情や意欲、意思、人と協同する力などの力を育てることは述べられてきたが）「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」として幼児期の教育の質向上の意図がより具体的に示された。

昨今、子どもの貧困や虐待、養育環境や保護者の就労・生活の多様化、不安定な社会・経済状況から、どうしても不利な立場におかれざるを得ない子どもや家庭の割合が増えてきている現状がある。筆者がこれまで行ってきた現場での実践や調査においても、不利な立場におかれた子どもや家庭の状況を目の当たりにして

きた。だからこそ、今回の改訂における幼児期への教育に対する捉え方に非常に期待を寄せている。同時に一方で、その多層性をどのように捉え、それぞれに応じた具体的な支援の在り方やその哲学についても探っていく必要もあるであろう。

これまでの教育や保育領域では、どのようにして良き教育を図っていくか、効果ある教育とは何かという「to be」の視点が強かったと感じている。しかし、さまざまな家庭や社会背景を抱えた子どもや家庭に対する支援には、まず現状を把握し、子どもを取り巻く社会には多層性があるという「being」を見出した上で、あまねく子どもたちが良き幼児期を享受していくために、改めて「to do」を進めて行く必要があるのではないだろうか。

自己責任論が跳梁跋扈する昨今、チヨウリョウヨウバツコ

幼き子どもと共に在るためには、常に不完全で何かへの「依存」を欠いては成立しない生の多層性を肯定し、子どもを取り巻く社会の多層性や子どもを支える営みの実相を見つめ、既存の学問領域の垣根を越えた総合的かつ学際的な子ども学の「多領域からのアプローチ」の重要性を強く感じている。

経営学部

2年目をむかえたエンターテインメントビジネスの学び

特任准教授 板生 研一

エンターテインメントとビジネス？ 一見、相反する組み合わせのように思えるかもしれませんが、これからの日本には、エンターテインメントビジネスを活性化できる人材が必要です。日本はこれまで、自動車や電機という製造業で成長してきた国ですが、これからの時代は国際社会で通用する新しい強みが求められています。日本人のきめ細かな感性は、世界を席卷することができます。しかし、それを総合プロデュースできる人材が足りません。

東京成徳大学では、エンターテインメントビジネスを総合的に学ぶ環境が整っています。1年生の最初に学ぶ「エンターテインメントビジネス論」では、エンターテインメントをビジネスとして捉えることの基礎を学びます。1年生後期の「グローバル・コンテンツビジネス論」では世界に目を向け、グループで最新のコンテンツビジネスの課題に取り組みます。2年生・3年生になると、「コンテンツマーケティング戦略」「エンターテインメントビジ

ネスの経営戦略」「デジタルコンテンツの著作権管理と契約」「イベントプロデュース論」のようなより実践的・専門的な科目を学びます。このほかにも、「アニメーションビジネス論」「ゲームビジネス論」「メディアビジネス論」「スポーツビジネス論」のような各業界に特化したテーマでもビジネスを深く学んでいきます。

これらの講義科目に加え、「エンターテインメントビジネス論ゼミナール」では、コンテンツビジネスにおける様々なビジネスモデルを分析したり、企業の実際の事例（ケーススタディ）を取り扱うことで、将来のエンターテインメント業界におけるキャリアの準備を行います。想定される将来のキャリアは、映画会社、音楽レーベル、テレビ番組制作会社、広告代理店等でのサービス企画、マーケティング・プランナー、新規事業開発担当、あるいは、インターネット関連の新興ベンチャー企業での事業企画やマーケティング担当などです。

4年間で経営学の基礎の上に、エンターテインメントビジネスをしっかりと学ぶことで、活躍の場は、国内にとどまらず、海外にも大きく広がります。

人文学部

日本伝統文化学科
TSU震災史研究プロジェクト

助教 小菌 崇明

今号では、授業外の学科の活動について報告いたします。

私は、有志学生とともに「TSU震災史研究プロジェクト」を立ち上げました。現在、東日本大震災の復興過程において、震災の記憶をどのように留めておくか、継承するかが問われています。そのなかで過去、先人たちはいかにして災害を後世に伝えてきたか、その検証をおこなうことを目的としています。具体的には千葉県内の関東大震災に関する碑等を網羅して、それぞれがどのような歴史的背景をもってつくられたか、残されたかを分析します。研究会が発足したのは平成28年10月



で、授業中に声をかけて集まった学生と活動しています。事前学習として、地震関係の書物や自治体の報告書等を読み、実際の調査として、船橋市、館山市、八千代市、館山市・南房総市・鋸南町を4回にわたって訪問しました。調査では、碑の測量

（位置（緯度・経度）、大きさ（縦・横・奥行））と撮影を行いました。四回の調査で明らかにした碑等は、現在合計で42。正直、千葉県内でこれだけの数があるとは私も思いませんでした。その後、昨年9月15日に、歴史地震研究会でポスターセッションに参加しました。同学会は、過去に起きた地震に関して、理学・工学・歴史学・社会学などの各方面の研究者が参加して議論する会です。私たちの研究会では、船橋・館山・八千代の調査から見つけた記念碑等の位置を表したものと、碑文全文を文字起こししたものをAゼロポスター二枚にまとめて報告しました。

学生たちにはまだ分析力が欠けているのですが、学会で他の研究者からどう見られるかということを経験しただけでも大変意義があったと思います。このような活動は学生の勉強の意欲を向上させるのに役に立つと考えています。

国際言語文化学科

学科長 周建中

本学科では、英・中・韓の三言語をそれぞれ専門的に学ぶか、複数言語を学ぶことができますが、同時に、海外留学や短期研修、さまざまな形の国際・社会交流への積極的参加を通じて、学生の総合的資質の向上と視野を広げることにも力を入れています。

昨年度に続き、11月21日の行事日に、2、3、4年生を対象として、立食昼食会を挟んでの3年生ゼミ論、4年生卒業研究・卒業論文の中間発表交流会が行われました。韓国からの交換留学生2名、台湾からの交換留学生1名も参加しました。一堂に会することで、先輩・後輩・留学生などの相互啓発と交流が図られました。なお、1年生は歴史民族博物館を見学しました。

次に、平成29年度前期の各種資格等取得状況ですが、TOPIK（韓国政府認定の韓国語検定試験）は最高水準6級の合格2名、5級の合格は2名でした。HSK（中国政府認定の中国語検定、最高水準6級）は4級の合格1名、3級の合格は2名でした。国内旅行業務取扱管理者試験は2名合格、「中国百科検定」は

2級合格1名でした（いずれも本学資格等取得奨励賞受賞該当）。後期はさらに多くの合格が出ると予測されます。

全日本青年作文コンクール入賞

このたび2年生田中歩佳さんは、『人民中国』雑誌社、中華人民共和国駐日本国大使館、公益財団法人日本科学協会主催のPandacup「全日本青年作文コンクール2017」において、47都道府県、498作品の応募の中から優秀賞に選ばれました。

10月16日中国大使館にて表彰式が行われ、田中さんは最高レベルの優秀賞受賞者10名の一人として表彰状を授与されました。優秀賞受賞者には、表彰状の他、10月下旬に7日間の中国見学旅行（北京、天津、上海、南京などの都市の訪問と大学生との交流）に招待されます。また、『人民中国』誌上とHPに作品が掲載されます。



短期大学

第31回 保育研修会 開催

11月18日(土)、東京成徳短期大学幼児教育科が主催する保育研修会が開かれました。

今回は平成30年度より実施される幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂と保育所保育指針の改定に関して、現場の実践に即した解説を行う研修を計画しました。反響はたいへん大きく、申込者が受付前切前に会場の定員である500名に達し、その後の参加申し込みをお断りせざるを得ませんでした。楷の木ホールがほぼ満員となった様子は壮観でしたが、幼児教育が歴史的転換期を迎え、保育者が明日の保育に直結する指針を求めていることを痛感させられました。

研修会では、幼児教育科の安見克夫科長による開会の辞、木内秀樹短大大学長による挨拶に続き、神長美津子先生(國學院大學)に「幼児教育を通じて育みたい資質・能力と『幼児期の終わりまでに育って欲しい姿10項目』のテーマで講演いただきました。休憩後は3つの分科会に分かれ、「現場に活かす改定保育指針と改訂教育・保育要領」(寺田清美本

学教授)、「保育を見つめる」(品川区御殿山すこやか園施設長 大澤洋美先生)「音楽の楽しみ―音による世界旅行 理解と実演―」(木柱下大祐本学准教授)というテーマで、活発な討議・実技研修が行われました。

卒業生か否かの枠を超え、現役の保育者が多数研修に訪れて下さることは本学に対する現場の信頼感の表れだと受け止めています。こうした現場の支持のもと、保育者を目指す高校生も本学を認知し評価してくれているようで、おかげさまで来年度の入学に関しても多くの志願者があります。入試選考状況も順調に推移しています。



高等部

Sクラス(1・2年)CTP授業

平成26年、特別進学コースの中にSクラスが創設されました。この「S」は、scholarly(学術的な)・strategical(戦略(考え)に関連した)・supreme(最高の、最上の)といった、すばらしい意味での「S」をたくさん身につけて欲しいという思いから名づけられました。何事に対しても自ら進んでチャレンジし、グローバル化・複雑化する社会において、様々な情報を正しく獲得できる感覚的・建設的なアンテナを構築し、私たちが生きていく社会の中で活躍できるようにリーダーの育成を第一としています。人間としての成長を第一に考え、高い知性と素敵な人間性を携えた、時代を牽引していくような人物への歩みを進めています。このクラスでは、別途特別に設置された様々な領域・分野における「+α」の要素を取り込んだ「CTP授業」が展開されています。

「CTD」は、Critical Thinking Programの略称です。「CTP」におけるCriticalとは、私たちが物事を考える際に、「画一的に妄信してしまおうのではなく、「物事の真理を多角

的な視点から検証し、既存の考えに束縛されない柔軟性をもつような」という意味づけをしています。さまざまな視点から対象を見つめることにより、物事の本質を理解する力、斬新なアイデアを創造する力などの「素養」を養う礎を構築する、教科の枠を越えた特別な授業です。仲間たちとの「学び合い」から得られる、深く広い「学び」を実践しています。

1年生は、「課題研究」へ向かうための準備として、情報収集法の実践・ミニディベート及びディスカッション・英語をツールとした翻訳作業(映像翻訳)が実施されています。また、2年生の「課題研究」における、グループごとのテーマは、「人工知能(AI)は人類に脅威をもたらすのか?」「日本と欧米の格差の違いは?」「新たな生物の可能性は?」「食品ロスの現状とは?」などがあります。私たちが生きる「今」、そして「これから」という視点で学びを深めていきます。

実験やアンケート調査、最先端の研究施設を訪問し、有識者からの情報収集を行ったりしています。現在、データの集計作業及び結論へ向けての検証・検討が進んでいます。今後、どのような結論に至るのか、

まうのではなく、「物事の真理を多角

今からとても楽しみです。

このCTP授業は、これまで様々なスタイルでの実践を試みてきましたが、試行錯誤の末、今年度から新たな形で展開することになりました。まだまだ構築の段階であり、今後も生徒と共に改良を加えながら、より良いものへと移行していきたいと考えています。

中高一貫部

中3修学旅行

11月1日(水)から11月4日(土)にかけて、一貫部中学3年生の京都・奈良修学旅行が実施されました。今回の修学旅行では、昨今の京都は外国人観光客で大変賑わっているということを受け、ただ名跡や寺社を巡るだけでなく、日本にきた外国人観光客とコミュニケーションを取ることも大きな目的としました。生徒たちは京都駅に着くなり外国人観光客に話しかけられ、とまどいながらも英語の授業で教わった知識を駆使し、積極的に国際交流をはかっていました。また多くの寺院が日本語だけでなく、英語や中国語でも案内板を出していたり、アナウンスを流したりしていることにも多くの生徒が

気づき、それだけ外国人観光客が多いということを実感しました。

2日目、3日目の班別自主研修では、事前にHPで調べた各所の見どころを見て感動したり、HPには記載されていなかった自分たちだけの見どころを発見したりしていました。中でも思わず感心したのは、「千本鳥居で有名な伏見稲荷大社の鳥居は実際には何本あるのか」と疑問を持ち、現地ですぐに数えた人たちがいたことです。ネットでも調べられる時代ですが、貴重なフィールドワークの経験になったことと思います。またある班は京都に向かうはずが間違えて滋賀方面に行ってしまった。京都に着いた頃にはくたくたに疲れていましたが、そのような失敗も楽しい思い出になるような素晴らしい修学旅行となりました。



深谷高校

台湾の高校生が来校

12月11日(月)、台湾の内壠高級中学校(日本の高等学校に相当)の生徒19名が来校し、本校生徒と交流を深めました。

まずは歓迎のセレモニーです。両校代表の先生・生徒の挨拶に続いて、記念品を交換しました。本校からは来年の干支にちなんだ招福の張り子を贈り、内壠高級中学校からは来校記念の盾をいただきました。最後に吹奏楽部とダンス部のアトラクションが花を添えました。

歓迎セレモニーの後は授業体験です。まずは、本校の井上洋平先生とハウズ・ステイヴン先生による英語の授業を体験しました。テーマは「血液型と性格の関係性について」。両校の生徒6〜8名でグループを作り、協力し合い、助け合いながら、次々と出題される先生の質問に対して、答えを導き出し、意見をまとめて発表しました。続いては、本校生徒の所属クラスでの体験授業です。数学であったり理科であったり、体験した教科目はさまざまですが、各教室へ移動したことによって、一気にコミュニケーションの範

囲が広がりました。

体験授業の後は、笑顔でお弁当を頬張り、学校のことや趣味のこと等々会話を花を咲かせました。しかし、両校生徒の交流はこの時間まで。名残は尽きませんがお別れです。午後19名は、中山幸男先生の指導による書道を体験し、次の目的地へと移動しました。

本校生徒は、修学旅行先の現地校との交流の経験はあるものの、受け入れる経験は初めてです。今回協力してくれた生徒全員が「また経験してみたい。」と感想を寄せてくれました。



深谷中学高校一貫コース

中学が開校して初の修学旅行

中学高校一貫コース5年生が、10月24日から28日までの四泊五日で広島・兵庫・奈良・京都の修学旅行に行ってきました。

初日は広島へ行き、ガイドさんとともに広島平和記念公園を散策しました。原爆の子の像の前で追悼セレモニーを行い、原爆が投下された当時の姿そのままに保存されている原爆ドームを始め、平和への願いを込めて作られた数々のモニュメントを見学しました。当時の様子を伝えるガイドさんの話はどこまでも深く、皆一様に真剣な面持ちで耳を傾けていました。

二日目は宮島の厳島神社と兵庫の姫路城を見学しました。どちらも青空との色彩のコントラストが美しく、まさに息を飲むほどでした。ガイドさんの話はどれもみな興味深く、より深く理解できた見学となりました。

三日目と四日目は両日とも、奈良と京都の班別自主研修を行いました。各班事前に調べた行程に従って、協力しながら名所旧跡を散策しました。どの班も大変充実した研修になったようです。

最終日は二日間お世話になった宿に別れを告げ、まずは八つ橋作り体験を行いました。生地から作る本格的なもので、皆四苦八苦ししながら生地を蒸したりこねたり伸ばしたりしていました。完成形も三角形のものから個性的な形のものまでさまざま。なかなかできない貴重な体験となりました。その後北野天満宮へ行き、昇殿参拝をしました。神主さんが合格祈願をしてくださっている厳かな雰囲気の中、皆こうべを垂れ、一つ一つの言葉に耳を傾けていました。

この五年間で多くのことを学んできた生徒たち。その知識が現実と結び付き、さらなる理解へと結びつく瞬間瞬間を身をもって感じることでできた、意義深い修学旅行となりました。



幼稚園

秋の大運動会

10月8日(日)、絶好の運動会日和の中、秋の大運動会が高等学校の人工芝グラウンドで開催されました。年長児の手話をまじえた、大きな声での立派な挨拶が始まり、子供たちは日頃の練習の成果を発揮して、みんな元氣一杯、学年ごとの競技を一生懸命頑張りました。

年長組は、小さい頃から憧れのパラルーン・クラス対抗リレー・マスのゲームの演技を行いました。年中組の組体操では、太鼓の合図に合わせて機敏な動きで演舞し、年少組は初めての運動会、頑張っかけてこをしました。

ひとつ、ひとつの種目に、たくさん保護者や家族の皆様から多くの応援や拍手を頂き、満足と大きな達成感にあふれた子供たちの輝いた笑顔が、とても印象的でした。



盛況だった作品展

11月18日(土)と19日(日)の両日、作品展が行なわれました。

保育室では、年長組「将来の夢」、年中組「ヘンゼルとグレーテル」、年少組「それいけアンパンマン」と、各学年で年齢に沿ったテーマに取り組み、作品を展示しました。どの作品も個性あふれた見事な力作ばかりで、多くの人々が立派な作品に感嘆して見入っていました。

また絵画の部屋には、年長組の子供たち一人一人が大判の画用紙に、年長になって取り組み始めた絵の具を使って描いた、ダイナミックな作品が展示されました。年中・年少組も、クレヨン画、折り紙に毛糸などいろいろな材料を使って表現した作品を展示しました。



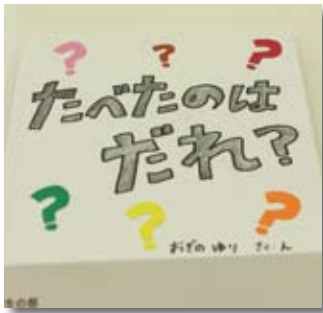
作品から日頃の園生活の成長が見られる、とても素晴らしい作品が並びました。大盛況のうち無事終了しました。

第8回手作り絵本コンクール

大学学部も学部も学部も学部も

大学生の部 (敬称略)

高校生の部



努力賞
「たべたのはだれ？」 荻野優里



子ども学部賞
「むんっ！」 小野田美咲



学長賞
「エンドウさん」 川口朋美



よくやったね賞
「おどぎちゃんとななつのふしぎなせかい」
前原好伽



子ども学部賞
「うみがみたくて」 内田智也



学長賞
「あいさつ」 宗網天音

東京キャンパス



「経営学部のファッションショー」
なんとウェディングセレモニーで会場をわかせました

東京キャンパス



「桐友祭のテーマ」
自分の色、個性を見つけそれを大切にしてほしいという願いです

千葉キャンパス



日本伝統、古来の装束、意外にずっしり重いのですよ？ (十二単)

千葉キャンパス



ステージで手話サークルが手話で歌を披露

中高一貫部



文化祭で茶道部が御点前 理事長・校長先生もお客様と一緒に一服

中高一貫部



文化祭で合唱部がミュージカル「星の王子様」を発表

高等部



文化祭でバントワリング部が華麗な演技を披露

高等部



文化祭で2年H組（理系クラス）は実験装置を作って来訪者に説明

深谷高校



文化祭で3年A組（保育系クラス）は恐竜をテーマにした教室で模擬店を出店

深谷高校



文化祭の各企画団体が校門からのアプローチにのぼりを立ててPR

幼稚園



年中組の秋の親子遠足 上手にぶどうがとれたかな？

深谷中学



中学の文化祭では学習発表会を行い、1年生も研究の成果を発表



東京都高等学校総合体育大会一位に輝いた高等学校女子バスケットボール部

東京成徳大学

- 男子バスケットボール部
関東大学バスケットボールリーグ戦 4部 2ステージ …………… 全勝優勝 (3部昇格)
- 男子サッカー部
千葉県大学サッカーリーグ 2部リーグ…………… 優勝 (1部昇格)
- 女子バスケットボール部
千葉県女子学生バスケットボール秋季トーナメント大会…………… 準優勝

東京成徳大学高等学校

- 女子バスケットボール部
全国高等学校総合体育大会東京都大会…………… 優勝
全国高等学校総合体育大会 (インターハイ) …………… ベスト 8
全国高等学校バスケットボール選手権大会 (ウィンターカップ) …………… ベスト 8
- ラクロス部
全国中学校高等学校女子ラクロス選手権大会…………… 優勝
- バトントワリング部
全国高等学校バトントワリング選抜大会…………… 第 4 位 (出場 28 校)
バトントワリング関東大会高等学校の部 バトン編成…………… 第 1 位、金賞、千葉県知事賞
バトントワリング全国大会高等学校の部 バトン編成…………… 金賞 (44 校中 5 位)

東京成徳大学深谷高等学校

- パワーリフティング部
埼玉パワーリフティング選手権大会…………… 男子 105kg 級 3 位 / 男子 83kg 級 3 位
女子 63kg 級 1 位 / 女子 57kg 級 1 位 / 女子 52kg 級 1 位
- チアダンス部
ダンスドリル秋季競技大会…………… 全国大会への出場権獲得
- 男子バドミントン部
埼玉県私立高等学校バドミントン大会…………… 男子シングルス A 優勝

東京成徳大学中学校

- 女子バスケットボール部
東京都中学校総合体育大会…………… 準優勝
関東中学校バスケットボール大会…………… ベスト 8
東京都中学校バスケットボール新人大会…………… 第 3 位
- バトントワリング部
全国中学校バトントワリング選抜大会…………… 第 4 位 (出場 15 校)
バトントワリング関東大会中学校の部 バトン編成…………… 第 2 位、金賞
バトントワリング全国大会中学校の部 バトン編成…………… 金賞、ノードロップ賞 (14 校中 6 位)

これから受験できる入試日程

大学	出願最終日	選考日
一般入試 B 日程 (全学部)	1 月 30 日	2 月 9 日
一般入試 C 日程 (全学部)	2 月 20 日	2 月 27 日
一般入試 D 日程 (子ども学部、健康・スポーツ心理学科を除く全学部) 同上 (応用心理学部健康・スポーツ心理学科)	3 月 1 日	3 月 8 日
一般入試 E 日程 (経営学部・人文学部)	3 月 5 日	3 月 13 日
AO 入試 5 期 (応用心理学部健康・スポーツ心理学科)	3 月 12 日	3 月 20 日
	2 月 26 日	3 月 6 日

短期大学 (幼児教育科)	出願最終日	選考日
一般入試 B 日程	1 月 30 日	2 月 9 日
一般入試 C 日程	2 月 20 日	2 月 27 日

高校	出願最終日	選考日
一般第 1 回	1 月 25 日	2 月 10 日
一般第 2 回	1 月 30 日	2 月 14 日

深谷高校	出願最終日	選考日
3 月単願入試	3 月 9 日	3 月 10 日

中学校	出願最終日	選考日
第 1 回入試 (午前・午後)	1 月 30 日	2 月 1 日
第 2 回入試 (午前・午後)	2 月 1 日	2 月 2 日
第 3 回入試 (午前)	2 月 2 日	2 月 3 日
第 4 回入試 (午前)	2 月 3 日	2 月 4 日



※詳細は各校ホームページでご確認ください。

学校法人 東京成徳学園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp	
東京成徳大学大学院	http://www.tsu.ac.jp/gra	電話 03-5948-5161
心理・教育相談センター	http://www.tsu.ac.jp/center/tabid/210/Default.aspx	電話 03-5948-5162
東京成徳大学	http://www.tsu.ac.jp	
東京キャンパス (十条)		電話 03-3908-4530
千葉キャンパス (八千代)		電話 047-488-7111
東京成徳短期大学	http://www.tsu.ac.jp	電話 03-3908-4530
東京成徳大学中学校・高等学校		
中高一貫部	http://www.tokyoseitoku.jp/js	電話 03-3911-2786
高等部	http://www.tokyoseitoku.jp/hs	電話 03-3911-5196
東京成徳大学深谷中学・高等学校		
中学校	http://www.tsfj.jp	電話 048-573-1784
高等学校	http://www.tsfh.jp	電話 048-571-1303
東京成徳短期大学附属幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind	電話 03-3911-6337
東京成徳スイミングスクール		電話 03-3914-2383

学校法人 東京成徳学園 〒114 - 8526 東京都北区豊島 8 - 26 - 9 TEL 03 - 3911 - 2411 FAX 03 - 3911 - 6500
 法人本部企画調査室 東京成徳広報 第 43 号 平成 30 年 1 月発行